



【高齢者・障がい者のための衣服 トレーナー育成事業】

- 2025年8月13日
- 認定・埼玉県指定・NPO法人
- 国際協力NGO・IV-JAPAN
- 「その手に技術を、アジアの人々に自立を。」

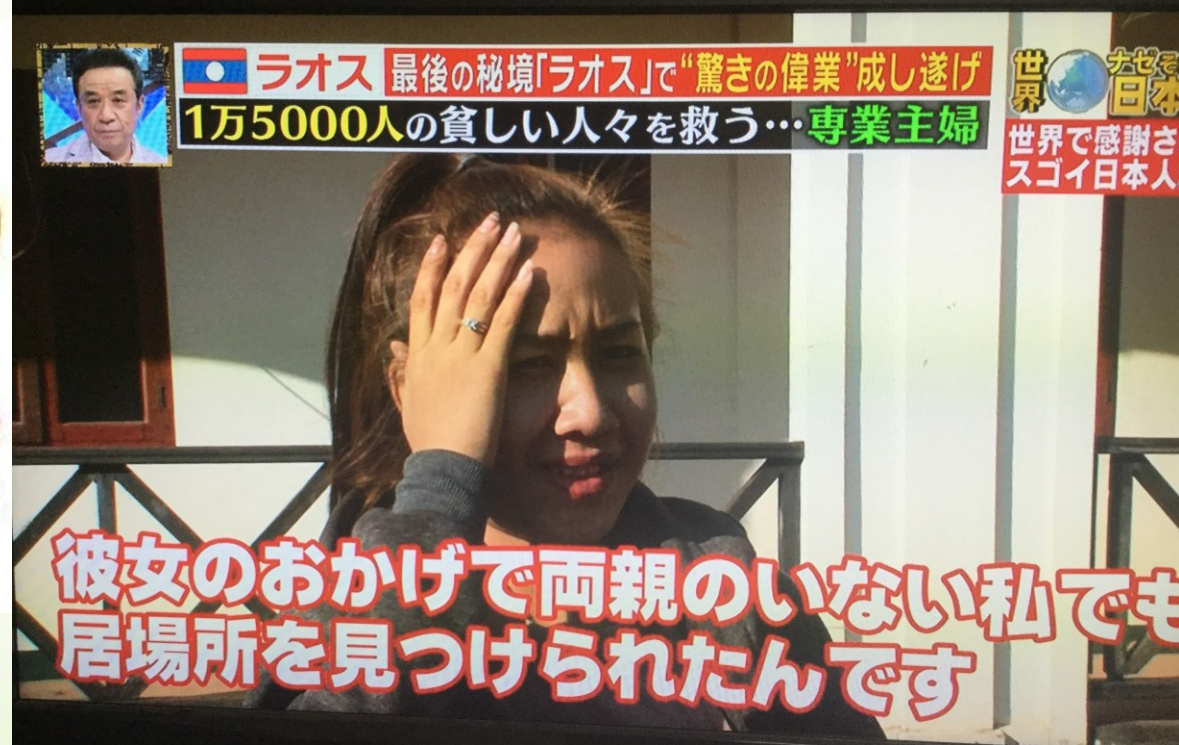


世界 ナゼそこに? 日本人 ～知られざる波瀾万丈伝～

★富永幸子の熱い思いから始まる

- ・中学生の時、ガールスカウトに入団、活動の原点
- ・1980~81年 タイ在住、難民キャンプ、農村開発を学ぶ
- ・1983~87年 大宮市帰国子女保護者会会長（ラオス難民）
- ・1988年~ タイで奨学金支給と農村開発を開始
- ・1994年~ アジアの最貧国のラオスで活動開始。

きっかけは旧大宮市内に居住していた300人を超えるラオス難民からの支援の要請。以後、ラオスを中心に、アジアの草の根の女性や青少年の経済的な自立を願い、主に職業訓練を通して人材育成を行う。





50の多民族国家ラオ族60%、その他少数民族
日本の本州の面積、森林70%、埼玉県と
同じくらいの人口710万人、農業73%



村の生活





首都ビエンチャン





庶民の市場





1994年ラオスでの活動開始

当時旧大宮市にはラオス難民が300人ほど在住し、ラオスの支援を依頼された。

1993年に在日本ラオス大使と協議し、シェンクアーン県で職業訓練を始めた。

10年間で1000人の山岳民族が機織り、縫製を学ぶ。

タムスア村は水不足に困っていたので、20キロ先の山から水道パイプラインを引き、村の3カ所に水場を作った。47世帯、270人は全員モン族。

▶ 家畜銀行も始める。





ビエンチャンの職業訓練所

- 1. ビエンチャン都職業訓練所（初・中級コース）
調理、理美容、縫製、木工家具、建設 1999年
- 2. OJT①（ビ都上級コース）2005年
- 3. 訓練生、トレーナー寮（ビ都教育局） 2008年
- 4. ナーサイトン郡職業訓練所 開設 2011年
- 5. OJT②（職業教育開発機関）2011年
- 6. ナーサイトン介護職業訓練所 2019年
- 7. ナーサイトン女子寮2023年 8. デイ케어センター2024年

1



2



6



5



4



3





首都ビエンチャンで1999年から 職業訓練開始

- 縫製、調理、理美容、家具、建設訓練
- 15歳～40歳の草の根の人々を対象
- 貧困者には授業料相当額の奨学金を支給
- 持続性のために公務員からトレーナー、マネージャーを養成（給料は国から）、授業料を課し、必要な教材等に使う
- 18種類の教科書を作成し、900冊を印刷、全県の職業訓練校、図書館に配布





IV-JAPANの教育支援

調理・縫製・理美容・木工・介護分野

「手に職」をつける『ノンフォーマル職業訓練』を実施

初級コース
3カ月間

中級コース
3カ月間

上級コース
4～6カ月間

職業技術訓練

実地訓練（OJT）

産業が少なく、就職先を得るのが難しいラオスにおいても、小規模ビジネスの起業により、経済的自立ができる。ラオスで初めてOJTを開始。

スモールビジネスマネージメント研修：
事業終了後も、カウンターパートが継続

IV-JAPANの
マイクロ・ファイナンス・ローン支給



➡ 介護職業訓練2019年開始

2023年彩の国さいたま国際協力基金介護士派遣、社会貢献支援財団女子寮建設

2024年デイケアセンター建設（N 連）





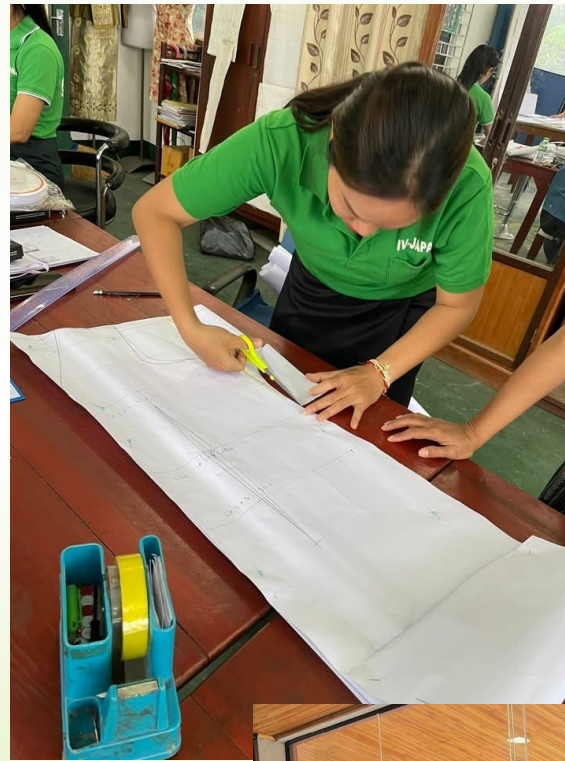
2025年高齢者障がい者衣服づくりトレーナー育成



日本人専門家元協力隊員派遣

ワークショップ初日より作業開始

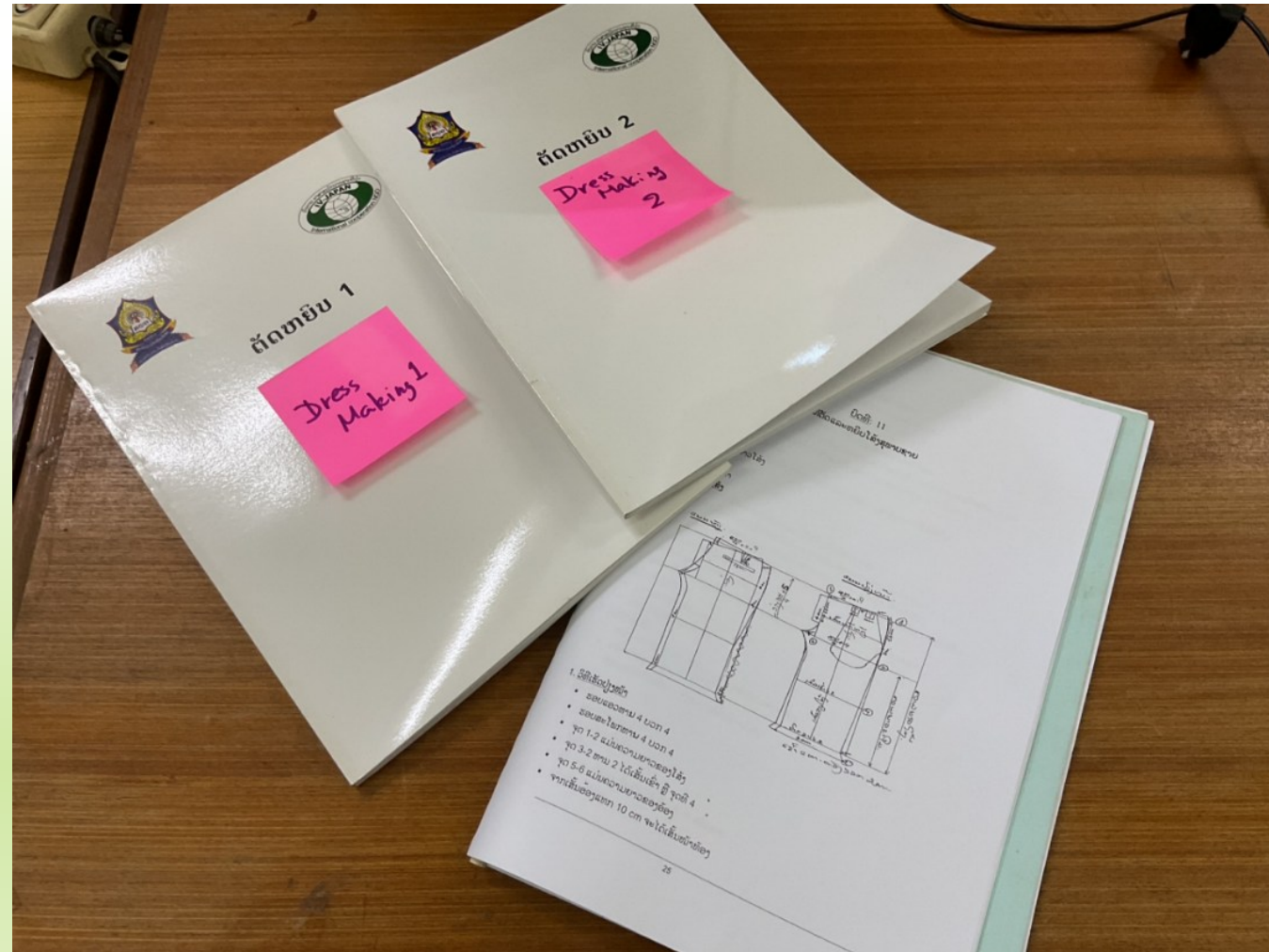




動画 「トレーニングの様子」



第1第2フェーズで作成した縫製教科書 高齢者・障がい者用のカリキュラムを作成





ご清聴ありがとうございました